

どんなことでも発言してみる



外部の集まりや説明会に出たり、研修会を開いてみて思うことは、高尚なことを發言しようとした過ぎて、いる、と いうことだ。そういう高尚な部分を必要とするものもあると思うが、どんなに些細な、どんなにくだらないことでも、發言することによって、その場に一つの議論が生まれるのだ。そういう議論の中でこそ、新たな発想は生まれるので、だから、自分がとてもくだらないと思つて、いるかも知れないことで良いので、發言してみるのが大切だと思う。そして、そういう發言をしようとして、それが、自分の文化の扉を開くことにも繋がるはずだ。ここ最近、妙にそういうことを考えていたら、「挨拶をする」ということも、自分の文化の扉を開く一つの小さな形なのでは無いか、といふところに辿り着いた。誰かに「おはよう!」と言われば、声の大小はあれどきっと「おはよう」と返すものだ。でも、自分から知り合い以外の人に向かつて「おはよう!」と挨拶する人はとても少ないものだ。そこを少し頑張つて、自分から挨拶でいる人間になつてみると、そ

ところが、中学の先生たちに聞いてはどうだろうか？実際に授業を見に行つたりしているのだが、「生徒が分かる授業」を目指しているとは思えない先生がかなり多い。例えば、英語の授業で、筆記体とブロック体が混じつた英語を書くと×とする先生がいる。ハツキリ言つて、アンタは何を教えたいのか？みたいなことを考えてしまう。丁寧な英語の字を書くことを教えたいたら、それは別にやればいい。ブロック体と筆記体が少しくらい混ざつても、読みやすい字であつたら、何の問題もないと個人的には考える。そういう先生が、まだ中学には少なかつた。

先生の あるべき姿とは？

The image shows the front cover of a book. The title '開脚' (Kōjaku) is written in large, bold, white characters on a dark gray background with a repeating circular pattern. Below the title, the subtitle '明快志塾' (Kōkai Shishū) is written in blue. A blue smiley face icon is positioned to the left of the subtitle. At the bottom, the text '個別指導学習塾' (Gokubetsu Shidō Gakushū Juku) is written in blue, and at the very bottom, the text '平成二十六年七月二日発行' (Heisei 26 Nen Shichi Gatsu Ni Nichi Hatsuou) is written in white.

らず存在するのだ。それって、本当に先生のあるべき姿なのか？こういうことを考えるのは、いわゆる「モンスター・ペアレント」と言われる保護者と同じなのだろうか？先生たちに、もっと公正な見方が出来るならば、何が大切かを見極められるはずだと思う。

もし、それが出来ないなら、外部からの意見に耳を傾けるようなシステムを取り入れるべきではないかと思う。今は何が出来るか分からないうが、まずは中学の校長先生に話を聞いてもらおう。よく働きかけてみたいと思う。

編集者の ひとりごと

だ。もし、少しでも友達が嫌いな子に優しくすれば、そのことを責められ、今度は自分がいじめの対象になるのではないかという不安と恐怖にかられる。その連鎖がおこるから、周りの人間に合わせるといじめがおこる可能性があると思う。」

これを読んで思ったのは、中三にここまで考えさせるだけの人間関係が、そこにはあるのかとも知れないということ。それをわれわれ大人が気づいて、違う方向へを導くことは出来なかつたのだろうか? ひょっとすると、学校の担任の先生ですら、「周りの子どもたちに合わせて」いたのではなかつたのか? 「事なき主義」という言葉が一時期流行つたが、それは形を変えて社会全体に蔓延してしまっているのでは無いだろうか?

ちょっと寄り道

第4回は荻窪。荻窪という街は、非常に微妙な街だ。たまに人に「荻窪って言えば、何?」って聞くけれど、大概、「乗り換えの場所」という返事になる。ごく希に、「ラーメン」という返事もあるのだが、今となってはかなりマイナーな意見のように思う。個人的には、わざわざ来るほどの街ではないけれど、来たら来ようになりかけたのを、リニューアルしてだいぶ立て直した感じだ。飲食店関係も、多くはチェーン店だが、よく探すとなかなか味のあるお店もある。あったりする。ただ、街全体がJRや青梅街道、環八によって分断されていて、統一性の見つかりにくい街でもある。少し駅から歩くが、アニメミュージアムや公会堂もあるので、1度は探検してみてもいいかも。



http://www.fujigra.com'."/>

吉祥寺レストランバー
AJINORI 大事なデート
ご予算にあわせた 小さな女子会
お料理承ってあります。 小さな男子会にピッタリ

■住所
〒180-0004
東京都武蔵野市吉祥寺本町1-25-4
平田ビル2F
電話番号 0422-77-3770
営業時間 PM5:00~AM1:00
<http://www.ajinori.mesa.com>

どうぞお電話にて
お気軽にご相談
くださいませ。